

令和2年 **3**月の**思いやり**通信

(1) 太陽光買取 12 円に 経産省、来年度以降 2 円下げ 発電業者の競争促す

*経済産業省は再生可能エネルギーの固定価格買取制度（F I T）で、2020年度以降、太陽光発電（事業用）の固定買取価格を 1 キロワット時あたり 12 円と、現在の 14 円から引き下げます。

*F I Tは再生エネで作った電気を大手電力会社が一定期間、同じ価格で買い取る制度。費用は消費者の電力料金などに上乗せ。

*250 キロワット以上の事業者は、固定価格の買取ではなく入札制に。

*10 キロワット未満の住宅用太陽光は 21 円と、2019 年度の 24 円（一部地域は 26 円）から下げます。

（2020 年 2 月 5 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

(2) 太陽光パネル 軽量化支援

E Vやドローン向け 開発費を補助

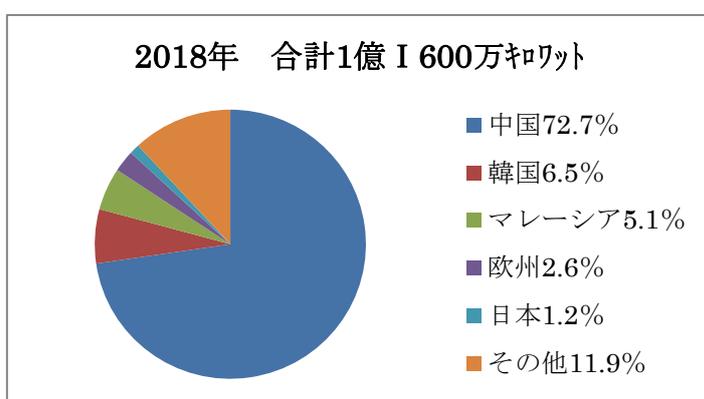
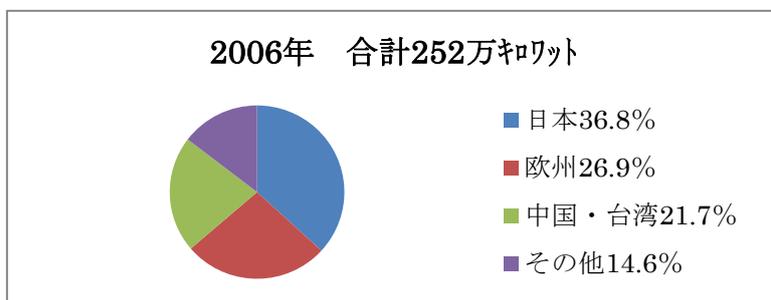
*国際競争が激化する太陽光パネルを巡り、経済産業省は軽量で電気自動車やドローンにも搭載できる次世代型の開発の財政措置を使った支援に乗り出します。

*政府は電源構成に占める再生エネルギーの割合を 2030 年までに 22~24% にする目標。

*再生エネ導入量を国土面積で割った数字は日本が世界 8 位で、英国やフランス、中国などより上。



太陽光パネルの生産量は中国が首位に



(2020年2月11日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 🌞 太陽光、廃パネル有効活用

大量廃棄控えメーカー始動 出光系、リサイクル設備

*太陽光発電用パネルのメーカーが、寿命を迎えたパネルのリサイクルに動きます。

- ・出光興産は2021年に専用設備を稼働。
- ・メーカーが処理装置を持つのは国内で初めて。

*廃棄されるパネルが今後急増する見込みで、処理容量が足りず有害物質が不法投棄されるような事態を防ぎ、太陽光発電の普及につなげる狙い。

寿命は25~30年

*パネルを廃棄する場合、現在は専門のリサイクル業者が扱っており、メーカー自らが関わるのは初めて。

*日本では、2012年度に再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度が始まり、太陽光発電が普及。

*パネルの寿命は25~30年。

*廃棄するパネルは年 1000 トンほどですが、2036 年には 28 万トンまで拡大します。

費用負担が焦点

*パネルの廃棄を巡っては、使用者側がもつ費用の負担が焦点に。

(2020 年 2 月 26 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



エコライフ - 部屋別の傾向と対策

ロフト

*ロフトは空間を有効に使うことができる場所。

*屋根からの熱が直接伝わってくるため、断熱・気密が十分でない場合、夏は特に輻射熱（遠赤外線熱線により、直接伝わる熱）に悩まされることになります。

*冬は暖かくて良いですが、夏は輻射熱と暖かい空気によって灼熱の空間になりがち。

*高窓を設置して効率よく換気します。

*重力換気：暖まると軽くなり、上へと昇っていく空気の性質を利用し、暖まってしまった空気を高い位置の窓から排出。

*冬は暖かい空気がロフトに溜まってしまうので、下からサーキュレーター（直進性の高い風を発生させて室内の空気を循環させる機器）を使ったり、シーリングファン（天井に取り付けて使う、室内の空気を循環させるための羽のようなもの）を設置して部屋の空気をよく混ぜると、上下の温度差が緩和されて快適に。

*夏は直射日光を室内に入れず、冬は室内に直接光を招き入れるような設計が必要に。

(高垣吾朗氏著「夢を叶える家づくり」より引用・抜粋)

